

会 議 録

会議名	第2回福山市長期総合計画策定審議会
日 時	2006年（平成18年）7月20日（木） 18時00分～19時50分
場 所	福山市役所6階60会議室
出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
欠席者	眞田委員，細木委員

発 言 者	議 題 ・ 発言内容
○事務局(森島部長)	失礼いたします。それでは、ただいまから第2回福山市長期総合計画審議会を開催させていただきます。委員の皆様には、大変ご多用の中ご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。 初めに審議会委員の交代がございましたので、ご報告をさせていただきます。社会福祉法人福山市社会福祉協議会の杉原委員より19日付で審議会委員の辞退届の提出がございました。本日付で新たに委嘱申し上げました委員をご紹介します。社会福祉法人福山市社会福祉協議会会長の岡野勝成委員でございます。
○岡野委員	ご紹介を受けました岡野です。よろしく願いいたします。（拍手）
○事務局(森島部長)	なお本日、眞田委員，細木委員から欠席のご連絡をいただいております。また、藤本委員がおくれてのご出席となっております。 それでは、井上会長よりごあいさつを承りたいと思います。
○井上会長	失礼いたします。皆様、本日お忙しい中ありがとうございます。前回第1回の審議会、6月の27日におきまして、市長より長期総合計画の基本構想について諮問をお受けいたしました。前回は事務局から基礎調査の結果とか、それから大切な基本構想の素案について説明を受けまして、簡単な質疑応答をいたしました。今回は本格的な審議をお願いしたいと思います。どうかよろしく願いいたします。
○事務局(森島部長)	ありがとうございました。それでは、これからの進行は井上会長によりしく願いいたします。
○井上会長	それでは、また上着を取らせていただいて、市役所ルールといいますか、やらさせていただきます。

○一同	<p>審議に入ります前にお問い合わせと申しますか、前回第1回でご了承いただきましたように、本日の審議会も公開で行いたいと思います。よろしゅうございますね。</p> <p>(「はい」の声あり)</p>
○井上会長	<p>それから、その次に、これも前回いたしましたように会議録を作成しておりますので、ご発言のときはお名前を名乗っていただきたいと。マイクのボタンを押して、それでお願いいたします。</p> <p>それから、本日の審議時間ですけれども、大体2時間と。遅くとも8時というところで進めたいと思います。</p> <p>それから、審議の進め方なんですけれども、きょうお持ちいただいておりますね。前回の資料にこの素案ですね、基本構想の素案、これについて私たちが意見を述べるということで、これを半分ずつに分けて、まず目次のところを見ていただきますと、1ページの序論のところですね、序論のところから構想のところの2の将来都市像、ページ数で15ページまであるんですけども、大体1ページから15ページぐらいまでを前半にして、あと残りを後半としたいと。今日は前半について集中的にやりたいと。時間があれば後半もちょっとかかってくることも考えておりますけどね。全部一遍にやるのではなしに半分ずつ分けて、そういうようにさせていただきたいと思うんですが、よろしゅうございますかね。</p>
○一同	<p>(「はい」の声あり)</p>
○井上会長	<p>そういうやり方でしましょう。調子が悪ければまたやり直します。それでは、そういうように2つに分けてやっていきたいと思います。</p> <p>それでは、前回の審議会ですいろいろな皆さん方からいただきました意見とか質問等を、会長、副会長、事務局で整理しております、本日配付いたしました審議会資料に載せてございます。整理結果について事務局の方から説明をお願いいたします。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>失礼いたします。それでは、第1回目の審議会におきましてご質問、ご意見をいただいた内容、これにつきまして資料の3ページ、4ページにまとめております。「第1回長期総合計画審議会における整理事項」、これをご覧いただきたいと思います。</p> <p>いただいた意見につきましては、意見・質問等の内容、理由などを記載いたしまして、右の欄にその整理をお示しいたしております。</p> <p>基礎調査にかかわってのご質問は4点ございました。(1)から(3)につきましては、前回説明を既にさせていただいております。</p> <p>(4)につきましては、保育料、延長保育、夜間保育、病児保育について、他市と比較したデータを示してほしいとのご意見がございました。これにつきましてご報告をいたします。</p> <p>資料の2ページをお願いいたします。表の中の④の延長保育についてであります、時間外保育が少ないのではないかと、こういったご質問だったと思います。本市におきましては、2005年度(平成17年度)の実績で91カ所で延長保育を実施いたしております。また、夕方以降の延長保育だけではなく、早朝の保育を実施しているところもあります。所定の保育時間外における保育の実施状況は、充実をいたしているというふ</p>

<p>○井上会長</p> <p>○門田委員</p>	<p>うに考えております。</p> <p>⑤の夜間保育についてでございます。夜間に保育をしてくれないといったご質問でしたが、本市には夜間保育所が2所ございます。夜間保育は全国で66カ所しか設置されておりません。そのうち2カ所が本市にあるといった状況でございます。</p> <p>⑥の病児保育でございますが、公的な機関での病児保育の実施状況に関するご質問でありました。県内では、保育所で実施している施設が1所、残りの12所は主に医療機関で実施をしている状況でございます。</p> <p>⑩保育料についてでございますが、福山市の保育料が高いのではないかとご質問ございました。本市の保育料は、これまでも国の基準を基本に設定をいたしております。そこで比較しております最高額につきましては、岡山市や倉敷市と比べますと上位に位置しておりますが、2005年度における1人当たりの平均保育料は「20,725円」と岡山市や倉敷市より低い金額となっており、本市の保育料が特に高いとは考えておりません。本市におきましては、全員入所、待機児童ゼロでありますとか、延長保育、また一時保育、休日保育、夜間保育、それから各種子育て支援事業などの保育サービスを年々充実いたしております。これらを含めましての保育料の設定ということになりますので、保育料の他市との単純な比較は難しいものと思っております。</p> <p>次に、今後のまちづくりの視点としての基本的課題の件につきまして1点ございました。素案の中でお示しをいたしております「人口減少時代の中、拠点性と求心力を備えたまちづくり」を「都市間競争の時代に、拠点性と求心力を備えたまちづくり」に変更したらどうかのご意見ございました。「整理」の欄に事務局（案）をお示しいたしておりますが、委員の皆様でご審議をお願いしたいというふうに考えております。</p> <p>なお、本日欠席の眞田委員から、都市間競争の時代と変更することに、これについては賛成であるという旨のご意見をいただいております。また、細木委員からは特にご意見はないとのご連絡をいただいております。</p> <p>次に、まちづくりの基本目標にかかわっての意見が5点ございました。（1）から（5）にお示しいたしておりますように、5点につきましては施策大綱に位置づけておまして、基本計画において具体的な施策体系や事業を編成していきたいというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>このようにまとめさせていただきましたが、2ページのデータがございまして、細木委員はきょうは欠席だから。</p> <p>では、これにつきましてご質問、ご意見ございますか。前回のまとめはこんなんでよろしゅうございますか。</p> <p>その中で、きょうみんなで議論しなくてはいけないのは、伊藤委員の発言された「人口減少時代の中」というのを「都市間競争の時代」に変えるかどうかね、変えた方がいいというふうに答申するかどうかについてまた議論をいただきたい。それは後で審議としてやりますね。それ以外にこれに、ご意見、ご質問ございましたら。</p> <p>門田でございますが、実は今の言われたことより別な問題でございまして、福山市は518平方キロ面積があるわけですね。それで、全体の面積が518平方キロですか、その中で私が思うのには、都市は別にしまして相当の耕地が荒廃しているわけです。農家の高齢化によってだんだん方々荒</p>
---------------------------	--

	<p>れてると。これが随分荒れてきたら田んぼの中へ土が流れ出すという気がするわけですが、これをどのようにしてこの計画の中へ盛り込むかという問題でございますけれども、なかなか私もいい知恵が出てまいりませんけれども、要するに耕地が荒れてしまって、非常に景観がそがれると、環境がそがれるということが大きいことと。</p> <p>それからもう1つ、林業でございますけれども、今現在。</p>
○井上会長	<p>門田委員、これは前回の、今の話で抜けてたということですか。新たなご意見ですか。</p>
○門田委員	<p>新たな意見です。</p>
○井上会長	<p>ちょっとそれは待ってください。後ほど伺いましょう。今のページのところでいいかな、よろしゅうございますか。</p>
○一同	<p>(「はい」の声あり)</p>
○井上会長	<p>それでは、門田さん、ちょっと待ってね。きょうの審議のところでご意見をお伺いします。済みません、失礼します。</p> <p>それでは、第1回の審議会のここに出した意見の内容をこのように整理させていただくということで進めさせていただきます。</p> <p>それでは、本日の中心議題ですかね、先ほど言いました1ページから14ページまでですね。ここについて1ページから14ページの内容といたしますから、基本構想の前提のようなところ、それから基本理念と将来の都市像までですね。そこまでについて。はい、では門田委員のご意見をお伺いします。そしたら耕地の荒廃ね。</p>
○門田委員	<p>いいですか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○門田委員	<p>それでは、特に環境問題でございまして、今非常に方々で水害が起きておりますけれども、要するに山の保水ですね。それと、土砂流を防ぐためには、今の山をそのまま荒らしておったのではなお災害が起きるばかりでございまして、要するに山の将来計画、それからさっき申しました農地の区分けをどのように今後やるかということで、非常に環境問題が起きてますし、美観にも影響いたします。これについてこの計画の中へどのようにして挿入していいか、僕ははっきりわからんわけでございますけれども、この福山市の非常に大変そういう耕地がございまして、都心はほんのわずかでございまして、ほとんど自然の農地、耕地でございます。それをどのようにして今後将来において保全するかという問題と、山の伐採等によりまして非常に今土石流がどんどん流れておりますけれども、それをどのようにして将来において保水と兼ねて、そういう土石流を防ぐための要するに考え方、どのようなことを考えるかということについて、この計画の中へ私は当然盛り込むべきだというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
○井上会長	<p>門田委員のご意見ですね。耕地の荒廃、生産というよりは景観面とか、</p>

	<p>そういうことですか。災害に関係してその他の保全といいますか、それを図ろうじゃないか、そういうような総合計画に入っていくのかどうか、基本計画とかその先の実施計画に持っていくような基本構想にあるべきだということですね。</p>
○門田委員	<p>そうです。以上です。</p>
○井上会長	<p>はい、それでは、安川委員。</p>
○安川委員	<p>今の問題、ご発言とも若干関連すると思いますけれど、この一番最初の「これからの社会展望と福山市の現状」というところの「これからの社会展望」という、ここら辺について若干意見を申し上げてよろしいでしょうか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○安川委員	<p>1つは、今の問題と関連しますと、②の「ソフト重視の経済社会」というところがありますね。ここで第一次産業、第二次産業、第三次産業とも持続的にという、ここなのですけど、例えば耕地、農業の問題等をどういうふうにするかというかなり基本的で深刻な問題があるんですが、やはり調和のとれた産業構造を維持していくとか、何かそういう形で農業の問題を含み込んで、将来はやはり多様な形だけども調和のとれた形をとっていくというようなことがあったらいいかなあというふうに思います。今の門田さんのご発言と関連したところはそんな感じであります。</p> <p>それから、もう1つ、これは私のあれですが、①の「グローバル社会」というところですが、確かにグローバルなんだけど、今グローバルというのは同時にローカルなところから発信するというような考え方で、グローバルという造語で表現されてるんですが、やはりローカルな社会を基盤に足場に据えてグローバルな視野で活躍、やっていけるような都市にしたいというような形でいったらどうかというふうに思います。</p> <p>以上の2点です。</p>
○永久委員	<p>済みません、いいですか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○永久委員	<p>永久といいます。入れ方はどのようになるのかわからないんですけども、人口の面とか面積の面、先ほどおっしゃいましたように、以前合併前の福山市とはいろんな意味で地域的な広範囲を含むとか、そういうふうな意味でもかなり機能というのが変わってきてるのじゃないかと思います。農業の方も、やはり農業の持つ多面的な機能というんですか、そういうのをやはり見直したいのと、前回の会議のときに出ていたと思うんですけども、地産地消の体系であるとか、そういったもの。それから、やはり私たちは安心・安全ということを求めるんですけども、その中の1つにはやはり食の安心・安全というものも非常に大きな要素を占めると思いますし、自給率のことなども最近言われてますので、ぜひともこの第一次産業というのがここの中にはほとんど出てないと思うんですけども、そういった意味のことも入れてほしいなというふうに思います。</p>

○井上会長	たくさんご意見が出ておりますけども、どうでしょうかね。1つずつ議論、ある程度たまったら議論しましょうかね。もう少しいろいろ出していただいてね。ほかにご意見ございますか。ある程度出たところで整理をしようと思います。
○相川委員	ほかのことでいいですか。
○井上会長	はい、結構です。
○相川委員	では、相川といいます。高齢者の問題と児童問題でお話ししたいんですが、それでいいでしょうか。
○井上会長	はい、どうぞ。
○相川委員	<p>介護保険の改正が今度4月から導入されておりますけども、今の体制でいくと適正に運用されるのではないかなと思うんですが、今までの例でいきますと、デイサービスに行った後、農作業をやっているような人もおるように聞きますので、介護保険は適正に運用していただきたいというふうに思います。</p> <p>それから、高齢者の問題として、リバース・モーゲージという、長期生活支援資金の貸付制度というのが、広島県が今最後に残ってる、全国どこも皆やっているんですけども、広島県だけ残っているという制度があるんですが、15年ほど前に武蔵野市が始めまして話題になった制度です。借受人の資産を担保に生活資金を用立てようというような形で、アメリカのような形にこれから多くの人がそれを利用していけるような福山市になってほしいというふうに私は思いますけども。</p> <p>ちょっと長くなりますので、児童問題はまた後ほどに。</p>
○井上会長	相川委員のご意見はきょうの部分でいうとどこになりますか。
○相川委員	少子・高齢化のことが出ていますので。
○井上会長	介護保険の適正運用とか、そういうのを含んでおるんやね。
○相川委員	はい。それと、リバース・モーゲージの制度が導入できないものかという意見ですけども。
○井上会長	それは相川委員は、この表現ではそういうのが含まれないんじゃないかという心配ですか。
○相川委員	はい、そういうことです。
○井上会長	少子・高齢化の進行と人口減少社会というところで、今発言されたようなことがないかどうか。ちょっと私はよく知らないで判断しかねるんですが、どうでしょうね。これはちょっと事務局さん、これはどうですか。
○事務局(藤井課)	失礼します。今、相川委員からのご指摘の介護保険の適正な運営をとい

長)	うことでございますが、4ページの時代潮流、「少子・高齢化の進行と人口減少社会」というのは、我が国の全体的な時代の潮流ということで整理をしております。むしろ介護保険の適正な運営ということであれば、施策の大綱の中で位置づけていった方がよろしいのではないかというふうに思っております。
○井上会長	そうですね、それはもっと先になりますね。ここではその一番心配されてるのは4ページの③のところの最後の3行ぐらいになるのかな。「一人ひとりが、健康で安心していきいきと生活ができ…」、この辺に尽きてるんじゃないかというふうに思いますけどね。 もう1点、介護保険ともう1つ何かおっしゃったね、貸付制度ね。
○相川委員	はい、長期生活支援の貸付制度、リバース・モーゲージというので、まだ広島県だけ導入してない。
○井上会長	それも恐らくもっと先に基本計画で、さっきおっしゃったようにその辺で議論されるので、この基本構想では今のところ含まれていないと。心配ないんだというような、否定するような表現ではないと。
○相川委員	「一人ひとりが、健康で安心していきいきと」という。
○井上会長	もうちょっとこういう表現なんておっしゃったかな、さっき。 それから、今までのご意見の中で農の問題がたくさん出て、農業の問題、農業というか、農地も含めた、その土地も含めた、どういうふうにするかという、その辺の問題がありますね。門田委員、それから安川委員、それから永久委員共通してね。農業というのかな、農業の技術、米を生産するというか、そういう農業だけじゃなしに、景観も含めてどういうふうに考えていくかと。この辺について、農業とか山の問題、ほかの委員さんで意見ございましたら。
○大元委員	いいですか。
○井上会長	はい、どうぞ。
○大元委員	一番の農家の代表で大元なんですけど、前回おしまいになんて今やりよることをちょっと述べたんですが、ほんとに難しい問題で、日本全部が困りよるときなんで、結局今門田委員の言われたように、あいた農地が目について困るという意見があるし、安心と安全という永久委員さんのこともあるし、非常にあるわけですが、基本は担い手をどうするかということが一番先決問題で困ってるわけですが、担い手をどうするかと。やりとらないという人が多いと困るわけで、本当につくったものが、やはりつくったものが本当においしいんだというような、今福山ブランドをやってしきりに生産しておりますが、それが定着するような方法でしていただきたいと。 これも大まかに申しますが、前回、4ページを使ってある。水産が2ページ、農水省関係ですね。なかなか難しい問題ですが、新しく合併した地域は全部農業地帯なんです。新市にしても神辺にしても、新しい今のフジグランが来た一帯は商業化しかけてきましたけど、ほかはもう大体農地

	<p>が多い。熊野へ行ってもそうですし、内海町は走島よりもう1けた大きい水産業がございます。そういうことで第一次産業へつく人は少なく困ってるわけですが、そういうところで農業の担い手を探す方法を見つけてほしい。いえば、それをもうちょっと4ページを6ページぐらいにしてちょっと宣伝して、こんな農家の楽しみがあるんだと、農業はこんな楽しみがあるんだというのを宣伝してほしいなという気持ちでおります。</p> <p>以上でございます。</p>
○安川委員	<p>この問題についてよろしいですか。</p>
○井上会長	<p>はい。</p>
○安川委員	<p>なるべくまとめる方向で発言したいと思うんですが、今の農業は物をつくるわけですよ。農業問題をどうするかという大きな問題がありますけれど、現実的にいえば、高齢者問題などを考えますと、やっぱり農業で物をつくるというのは健康の源なんですよね。結構源になってる。そういう意味でいいますと、巨大な産業じゃなくて、手でいろんな物をつくる。農業でも物をつくる、それから工業で物をつくるという、そういうようなところ、物づくりを大事にする町というぐらいなところでまとめてその考え方を入れたらいかがなんでしょうか。ちょっと違いますか。やっぱり農業も含めて土に親しんで物をつくる。それから、そうではなくて例えば家具をつくるのもそうかもしれません、そういうのを1つの考え方でまとめて物づくりを大切にしている町とか、同時に、ついでにそれが人づくりを大切にしている町とか、こんな感じでやったらどうかというの、まとめになりませんか。というような、安川です。</p>
○大元委員	<p>大元です。今の話でいいんですが、あまり細かいやり方というのは、農政課の福山市農業ビジョンというのがございますが、これが恐らく今度合併した地域を一緒にした広範囲の農業ビジョンができるわけなんです。ですから、その農業に対する農業ビジョンはそちらの方へお任せして、健康で安心で、福山でつくったものはおいしいんだ、だから農業をやりましょうというような、大まかでいいですから、農業の楽しさというのを長期計画の中へ入れてほしいなという感じがあるんで、細かい農業というのは、また農政課か何かの農業ビジョンを新しくつくらんといけんし、できるだろうと思うんですが、やらんといけんと思うんですが、神辺のモモとか沼隈のブドウとかいう新しい産地がグッと入ってきましたので、そういうところで、どう言いますか、細かくはやっていただくんでもいいんですが、今の4ページでなしに6ページぐらい欲しいなと。前回を見さしてもろうて、そういう感じがいたしました。</p>
○井上会長	<p>今のページは、4ページからどのページですか。</p>
○大元委員	<p>前回の長期総合計画の、この中の農業関係が4ページございます。まず、大まかにでええと思うんですけど、これをもうちょっと6ページぐらいにさせていただいて、ちょっと農業の楽しさというのを宣伝してほしいなという感じがあるんです。</p>
○井上会長	<p>あちこち、農業に関係するところは、少し探したら4ページに記載され</p>

	<p>てると。</p>
<p>○大元委員</p>	<p>はい。この中へ4ページ、前回のが4ページあるんで、この総合計画では目につかんかって、ああ書いてあったわというんで、これは素案の21ページの最後の2行へあるんですが。</p>
<p>○井上会長</p>	<p>もうちょっと農の問題に時間をかけましょうか。</p>
<p>○門田委員</p>	<p>いいですか。</p>
<p>○井上会長</p>	<p>はい、どうぞ。</p>
<p>○門田委員</p>	<p>今までの発言者の大元さんにしても永久さんにしても非常に農業を心配されてると。というのは、農業生産もさることながら、この日本列島をいかにして荒れるのを防ぐかということですね。山を守る、農地を守るといことは。守るといっても、高速ができなければ困るんだけども、荒廃する日本列島を防ぐんだと、福山市で防ぐんだと。さきに意見がございましたが、合併したところは皆農村でございます。神辺にしても新市にしましても、それから駅家にいたしましても芦田にいたしましても、沼隈、内海町、全部農村地帯です。その中で農地が随分ございます。農地が荒れて非常に環境を悪くしたら、これは大変だろうと思います。農業政策は非常に困難性がございますけれども、せめて荒れる農地、山を何とかして防ぐということぐらいは、お互いに考えていいいんではなかろうかと思うんです。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>○井上会長</p>	<p>ほかの委員さんはいかがですか。はい、どうぞ。</p>
<p>○山口委員</p>	<p>山口でございます。僕は農業はあまり認識ないんですけども、ちょっとこの前、安川委員さんが夢を語ったらどうかということでもありますので、ちょっと夢を語らせていただきたいと思うんですけど、今の門田委員さんも休耕田の活用ということを言われましたけど、それは休耕田を活用して利益か何か得られて、それで環境がよくなるということだとすばらしいと思うんですね。</p> <p>それで、僕は1つ思うのですが、世の中、今1分間に何百人も死んでるとか何万人も死んでるといのがありますね。それで、例えば休耕田で米をつくって、福山市がどこかへ売ると。それで対価は石油でもらうとか。とにかく穀物は輸入するより長もち、日もちがするし、経費がかからんわけですね。例えば、牛肉ですと冷凍車とか冷凍の船に載せて、維持管理をして送らないといけない。それで、日もちもしないというのがあるんですけど、米とか穀物というのはそういうことがないということですね。管理費が安いんです。</p> <p>それと、もう1つ大事なことは、すぐにできないということなんですね。米ですと、まあ何か月かかるんかちょっとようわからんですが、すぐにできない。これをやっぱり、それでは米からほかの作物にせえということになると、よそから輸入せないけんということになるんですね。ですから、そこらあたりもうちょっと、米をつくるなではなしに、つくれと。そのかわり福山が、農協でもいいんですけど、一手に引き受けて、よしどこか、</p>

○井上会長	<p>今先ほど言うたように油が取れるところに売って、それで油を輸入するというような、ちょっとおもしろい発想も要るのではないかな。ちょっと場違いかもわからんですけど、そう思います。</p> <p>たくさんの委員さんが農業をおっしゃる、農業のことをね。門田委員、安川委員、永久委員、それから大元委員、山口委員、これほど意見が出ますと、どういたしましょうかね。特に農家のいわゆる生産として、産業として米をまた福山の中でたくさんつくっていくんだと。それで総生産を上げるんだと。その辺は非常に難しいことはないの。何ぼできても買ってくれへんから。もっとブランドのある何とかという米の方がね。</p>
○大元委員	<p>今、米の問題がありましたけど、生産過剰で困ってるんですよ。</p>
○山口委員	<p>それはわかっています。</p>
○大元委員	<p>そういう関係で、それにかえて遊休農地をなくすと門田委員は言われたのではないと思うんですよ。農政の中の細かいことは、この長期計画の中であまり審議しなくてもいいんじゃないかと。ただ、荒れ地がないようにする担い手を集める方法をやればいいんじゃないかな。農政の基本に対する、日本の農政に対する基本は、来年度から日本の農政はごろっと変わるわけなんですけど、そういう農政に政府も変えてくるわけなんです、それに対抗して農家がどうするかというものは、これは農政課へ任したらよろしいんじゃないかと。もうちょっと細かい、農政は、どう言いますか、総合的にでなしに、福山市だけの中で考えたらいいんじゃないかな。これくらいでいいんじゃないかなと私は思ってますが。</p>
○井上会長	<p>そうすると、米の生産という問題でなしに、そういう問題が大事なんじゃないかに、田んぼの景観とか、今の緑地の保全とか、そういったことが大事であって、私も個人的には原風景というのがなくなっていくということが寂しいと思ってるんですよ。子どものときに見た田んぼの風景ね。ふるさとへ帰ると川の光景がなくなりました。田んぼも曲線だったけど、区画整理で真っすぐになったり、そういう景色が変わってくる。それから、私自身の家も農家で、田植えが終わって、それでこんな緑の苗の上をツバメが飛んでる景色で。NHKで昼の憩いのメロディーを聞いたら涙が出ますわ。原風景というかな、そういう風景がなくなってくる。それから、たわわに実った稲穂、秋津島瑞穂の国というかな、それに赤トンボが飛んでる風景ね、ああいう風景は私の年だと非常に懐かしくて、やはりなくなっていくのは寂しいんですね。そういうのは田舎へ行けば幾らでもあるんですよ、まだ。この福山の1日生活圏の中でそういう場所があればいいと思うんですけどね。だんだん都市化してきてなくなってきたから。そういう意味で私も賛成なのですけどね。農に対してね。はい、どうぞ。</p>
○安川委員	<p>済みません、私も今のご意見と全く一緒で、基本的に根本的にどうするかというのは別にしまして、風景としての農業というのがありますし、それから先ほど物づくりということでもとめたらどうかと言ったのは、やっぱり趣味でもないですけど、働くというのは広く重要な意味合いがあって、土地に親しむという。ですから、いろんな市民がやはり土地に親しむ形での物づくりというようなところでまとめていく。農業問題をどうしよ</p>

	<p>うという形にはとてもじゃないが言えない。ただし、まちづくりの中にはやっぱりバランスのとれた見通しが要って、風景としての農業を含めてバランスのとれた考え方が必要だから、一方で産業の発展という場合に、そういう趣味としての農業と言うと怒られちゃうかもしれませんが、これは恐らくこれから高齢者問題等を考えますと極めて重要な意味を、ちょっと働く場をきちんとしておくというのは喜びとしての労働をどうここに確保するか、農業が一番おもしろそうということがありますので、そういう意味で私は賛成して、農業がなくなっていいと言うつもりは全然ありません。</p>
○門田委員	<p>いいですか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○門田委員	<p>私はさっき申し上げましたように、ほとんど合併地区は農村にあるということございまして、したがってその土地にある農地、山林、こういうものが随分荒れていったら何が起きるかわからんと思うんですよ。いろんな地域社会が不安になると思うんです。そういう農地を守って、美観を環境を保っていくというのが1つの政策として要るのではなからうかと。</p> <p>今、農業生産を表に出していくのは、これは非常に難しい問題でございまして、それは農政課に任せればいいと思うんです。したがって、要するに福山市の国土518平方キロを、その中の都市は一部でございまして。ほとんどが農村地帯です。その農村地帯の従来美観が残るような1つの手だてを考えていくのは非常に困難な問題でございましてけれども、そういう意識を持って福山市の518平方キロを守っていかなきゃいけないという気がするわけです。したがって、よそまでは及ばんけれどもせめて福山市の土地だけは要するに無秩序に荒れていく、山をどんどん伐採して、雨が降るとすぐ土石流が流れてくるというような状態に置くと非常に生活が不安であるということからして、そういうお互いの生活を守るためにおいても、そういう山林、農地を何とか保全していくということがやはり、さっき各委員さんおっしゃっておられますように、また会長もおっしゃいましたが、我々の郷土は、ふるさとには非常に美しい美観が保たれてるということが欲しいものでございます。</p> <p>したがって、今芦田川の護岸工事もコンクリをやめました。コンクリをやめて、例のイソギンかな、木を束ねたやつを、このくらい束ねたやつをずうっと積み重ねていって、そいつを護岸にしていって、それで木の上でとめて、それへ自然と今度は砂が寄ってくる、草が生える、魚が住まいすということ今試験的にちょっとやられました、1セットやられましたが、切った木は芦田川に生えてる木を持っていったわけです。そだ木のやつを。そだ木を持っていって、そういうふうにして護岸はコンクリではないんだと、そういうもので今後行うんだという常識が変わってくるわけですね。したがって、それでも山から切り出した小枝がほとんどでございましてけれども、建築材でないわけでもございましてけれども、そういう美しいふるさとを我々はどのようにして守っていくかということが、やはり将来にわたっても大事な気がいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
○岡野委員	<p>ちょっと発言してよろしいですか。</p>

○井上会長	はい、どうぞ。
○岡野委員	<p>初めて来て発言するのもおこがましいんですが、基本的に農業政策についてはやはり国の政策というのが大きなバックになってくると思うんですね。この場合というのは福山市の基本構想なわけなので、これを出すというのが難しくなりますと、今言われてるようなところというのは施策の最後のところでポッと出てくるんですね。例えば、23 ページの一覧で、施策の大綱のところで「地域特性を生かした農林水産業の振興」というところに出てきます。そして、それを徐々にたどっていきますと、人づくりを進め、新たな文化や産業を創造するところのジャンルに入ってくる。その前段を見ますと、3 ページの「ソフト重視の経済社会」のところで農業の第一次産業が出てくるんです。そうして見ると、現状のところの整備をすれば、この基本構想をもとにして基本目標、それから施策の大綱へつながってくる根拠になってくるのではないかなという、体系ができるようになってる。</p> <p>3 ページのところを見ますと、「縮小する一方で」というところで、あと一次産業、第二次産業のページとしては甚だ記述が少ないと思うんですね。それを受けて人づくりを進め、新たな文化、産業を創造するところへポンと飛んでおるので、ここへつなぐようなものがあればですね、先ほど大元さんが言われたように、具体的なものは農政の方で政策運用といいますか、そういったもので具体化されると。体系的にはそういうふうにつながるのではないかなと思うんですが。</p>
○井上会長	<p>そしたら、こればかりやってるわけにいきませんので、農の問題ですね。農地と山林の保全と活用かな、この問題を今幾つかの話、試みにやっていくもの、もっと後ろの方とかに随分入ってきてるから、前段の方でつながるような表現の検討をしていただくと。農を生産地としてとらえるのじゃなしに、先ほどいろいろ言ってくれた趣味としての農業と言ったらちょっと言葉は悪いですが、それから健康とか原風景とか、そういうキーワードが福山の中に欲しいんじゃないかということから、充実していったらいいんじゃないかと。そういうことにつながる基本構想、今のところね、そういう検討をしていただけないかなと思うんですね。そういう提案をする、大まかなところ、きょうのところはそういうことで取りまとめさせていただきます。</p>
○岡野委員	はい、結構です。
○井上会長	<p>あと事務局できょうの意見を整理していただいて、難しかったらまた事務局の方から反論していただいて、また次回以降にもっと突っ込んでいただいて。事務局からそういうふうな。</p> <p>それでは、それ以外の件でいかがですか。はい、どうぞ、井上委員。</p>
○井上タカ子委員	<p>私たちは先日、コミュニケーション講座で子どもの問題に取り組んでまいりました。その中でニートの子どものがたくさんいるんだそうです。ニートにさせない一番最も子育てのやり方を、もうちょっとその方面をこの中で取り組んでいただけたらいいんじゃないかと思うんですけれど。</p>

○井上会長	これ、事務局さん、これに含まれるんですね。今のやつは、ニートという。
○井上タカ子委員	やはり物の豊かさに慣らされてるから、こういう方たちがたくさん出てくるんじゃないかと思うんです。親の育て方、その問題をこの中で対策に取り組んでいただければと思うんです。
○井上会長	子どもの問題、大切な問題ですから。
○井上タカ子委員	はい。
○井上会長	これはどこになるのな。ニートは基本構想のどこかにあるんじゃないかな。雇用形態、雇用体系の。
○井上タカ子委員	大きな問題になることは今。
○事務局(藤井課長)	雇用形態、いわゆるフリーターとかニートの問題でございますけれども、これは5ページの⑥「雇用形態が多様化する社会」というところで整理をいたしております。それで、特にとりわけ若年層で定職を持たないフリーター、あるいはニートというのが増加してきているという現状というもの整理をいたしているところです。これを受けまして、先ほど岡野委員が言われましたように、施策の大綱の中で産業政策をここで整理をしているということでございます。
○蔵田委員	委員長、よろしいですか、今のに関連して。
○井上会長	はい、どうぞ。
○蔵田委員	井上委員さんの言われたのはそこではなくて、多分4ページの3の方の「次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため」というところのニートにならないように育てるためにというところを言われたのだと思うんです。ニートとかフリーターとかをどうするとかではなくて、そういう子に育てないための施策はどこにあるのかというのを言われたと思います。
○井上タカ子委員	それが一番これから大事ではないかというふうに。
○井上会長	蔵田さん、いいですね。取り違えてまして、ごめんなさい。雇用の問題じゃなしに教育の問題と考えると。
○岡野委員	すみません、関連かもわかりませんが、今③のところ議論されておるんで、事務局の方へちょっとお尋ねをしたいんですが、上から3行目に高齢化の進行に伴う死亡数の増加と書いてあるんですけども、福山市の自殺の状況はどうなんですか。全国的には大体数字が出ておるんですが、高齢者の自殺もあります。40代、50代の人占める割合が高い。高齢者

	までいかない人。
○事務局(藤井課長)	会長，事務局です。
○井上会長	はい，どうぞ。
○事務局(藤井課長)	今，高齢者の自殺の増加ということを言われました。これは確かに高齢者人口の増加に伴いまして，確実にふえているというふうに考えております。これについての福山市のデータというのは，現時点では整理をいたしておりません。必要ならば次回に報告をさせていただきたいと思っております。
○井上会長	それでは，井上委員と蔵田委員の今の子どもというかな，ニートやらという問題に対して，どういうふうに福山市が取り組んでいくのか。それに関して，基本構想でそれにつながるような項目が出てくるのかということですね。
○三上委員	よろしいですか。
○井上会長	はい，どうぞ。
○三上委員	三上です。先ほどの件と関連するかどうかわかりませんが，⑥のところではフリーターとニートのところですね。こうしたことから個人の価値観の云々で，若者の就職支援を強化することが重要と考えられると書いてあるんですけども，確かに就職支援というのも大切なことだと思うんですけども，若者があえてニートになったりフリーターになったりしてるといのは，ただ就職がないからということだけではなくて，今の中高生を見ても，安川先生が前回おっしゃったことにも関連するんですけども，自分の将来に対してあまり夢を持っていない，自分の未来に対してもあまり夢というか，そういうことを夢が描けてないということもフリーターやニートが増加している原因の1つではないかと思われまます。 ですから，ここのところでも就職支援を強化したとしても，結果はひょっとしたらフリーター，ニートは減少するかもしれませんが，それはやはりそのもっと以前の問題で，学校の中，中高生時代，小学校，幼いころから自分の将来に夢を持つような教育といいますか，もちろん家庭の教育もそうでしょうけど，そういうところをもっと前提として重要なことではないのかなと思います。そういうことも少し盛り込んでおく方がいいのではないかと思います。
○井上会長	そうですね。フリーターやニートの根源的な，本質的な理由ですね。私は結構だと思いますけども。
○常盤委員	いいでしょうか。
○井上会長	はい。
○常盤委員	常盤と申しますが，先ほどの話は私も前から考えてるんですけど，ぐる

ぐる回りになるのかもしれませんが、やはり温かい愛を子どもたちに与えてやらなければ、そういう子どもたちが変わっていかないと思うんです。ただ教え込むだけでは。現在の家庭の中にそういう愛が少ないんじゃないかなと。私も子どもたちをたくさん教えておりますが、ちょっと悪い子どもたちは親が恐れて、子どもをしかることすらしない。そういう中で、子どもたちは親にしかってほしいと思ってる子がたくさんいるんですけども、そういうことをしてやらない。そういう親というのが子どもたちを生きる喜び、だれかのために尽くす喜び、そういうことがないのだと思うんです。

ちょっと長くなるかもしれませんが、私のところのけいこ場の下で男の子が初めてたんです。たたいたりけったりして。私は見るに見かねておりて行って、その男の子をピシッとたたいたんです。そしたら「痛い」と言ったから、「痛いでしょう。この子はもっと痛いよ。あなたがたたいてけった子は、それどころじゃない、もっと痛いよ。あなたが痛かったら、この子にごめんねと言ってあげて」と、それだけ言ったら、翌日その子が「おばちゃん」と私のけいこ場に訪ねて来たんです。もうドキッと何と言うのかと思ったら、「おばちゃん、きのうありがとうね」と言うたんです。「えーっ」というか、「あのね、家に帰ってもだれも怒ってくれる者がおらんの。僕はそれが腹が立つからだれでもたたくの。おばちゃん、ありがとうね」って。その言葉で私は抱きしめて、「おばちゃんはどううれしい。おばちゃんがあるとうって礼を言うよ」って、「それだけわかったら僕は絶対立派な大人になるからね」と言って、「また遊びにおいで」と言ったんですけども、ほんとに子どもを自分の子として育ててないんじゃないかな。ほんとに愛情を持って育ててないんじゃないかなと思いますので、そういうことももう少しどうしたらいいか考えてほしいと思います。

長くなってごめんなさい。

○井上会長

それでは、この子どもの件ですね、最後の23ページ、これは後回しにするって、ここまで行ってしまいましたが、23ページに、基本目標の2つ目の括弧ですね、子どもが健やかに育つようにと。その右側の施策の大綱のところで、「子どもが健やかに生まれ育つ環境都市に…」、こういうことで、こういう表現に含まれませんですかね。具体的にニート対策をどうするか、それは先の話やわね。基本構想としてはこういう表現で。これでは、もうちょっとこういうふうに変えた方がいいというご意見がありましたら。

大まかなところで、こういうことで、こうなりませんかね。で、施策の大綱はこうだから、では具体的にこういうことをやりましょうというのは先に出てきますから。今おっしゃったようにね。いろいろ対策を検討しないとね。この場で対策を検討できへんから。

○藤本委員

藤本ですけど、会長が言われるように大綱ですので、具体的なものについてはこれから先だろうと思います。先ほど井上委員が言われたような内容のことも、既に今現状学校教育でやられてることですし、やはりすべてにですね、子育てもあるんですけど、子育てをするために安定した家庭を築かないけん。安定した家庭を築くためには、やっぱり親の方が、親御さんが安定した職業につけないとだめなんです。すべてにかかわってくるだろうというふうに思いますので、今回のこの案というのは、やっぱり大綱

○井上会長	<p>的なものやあって、あと、できればその中で考察するところがちょっと抜けがあれば、それをつけ加えるという形でちょっと進めていったらどうかというふうに思います。</p> <p>はい。今のように意見を言っていて結構なんですけどね、そういうことが一番心配だとか、やるべきだと思うとか、それがこの中に、基本構想の中にそういう方向に向かうことが入ってないといかんから、そこを確認できればいいんじゃないでしょうか。</p> <p>それでは、子どもの環境づくりのことについてはこのぐらいで。</p>
○山口委員	<p>ちょっと。</p>
○井上会長	<p>はい。</p>
○山口委員	<p>この本なんですけど、例えば今後どうしたらいいか、いろんな表だとかいうのがあるんですけど、その中で100ページですけど、小学校、中学校、高校などの学校教育の充実となっておりますね。それで、大体回答者の年齢を見ると想像がつくんですが、果たして小学校へ重きを置いてるのか、中学校へ重きを置いてるのか、高校へ重きを置いてるのか、どこが心配なのかというのをもうちょっと具体的であった方がいいと思うんですね。</p> <p>というのは、先ほど常盤先生が言われましたけども、私はスポーツ少年団の方を専門にやってるんですが、やっぱり小学校3～4年ですか、10歳ぐらいまでに、大体悪いことをしたら殴られるとか、人の物を取ったら殴られるとか、こういう予防をしておけば、少々中学でねじれていっても、またもとへ帰るといのが大体なんですよ。</p> <p>ですから、大体小学校のときは皆自由になると思うんですね。親は子どもにそっちへ行ったらいけんよとか、これやったらいけんよとなるんですが、それが自由になるものですから、中学になっても当然なると親は信じ切っとるわけですね。しかし、中学になると、おっとどっこいそうじゃなかったと。うちの子どもは言うことを聞かないというのがですね。ですから、そこらあたりやっぱり小学校のときの人間性を高めるような教育をすると、僕は今30年ほど子どもにかかわっているんですけど、やっぱり先ほど言われたようにわざと、例えば兄弟3人ぐらいになると、一番下の子はもう親にかまってもらってないのだと思うんですね。ですから、悪いことをしてたたかれても悪いことをする。背を向けてしまう。それをさせたらあかんですね。ですから、そこらあたり教育の充実にしても、小学校のときにはこうやらないけん、中学校、高校はこうだということをやっぱりもう少し具体的にやった方が子どもの教育にいいんじゃないかと思うんですね。</p>
○井上会長	<p>施策の大綱のところへ、小学校のときはこうでと、そういうことを書き込めということですか。</p>
○山口委員	<p>いや、それをどううたうか。</p>
○井上会長	<p>先にそういうことをにおわせて、否定しないようになっていけばいいですね。はい、どうぞ。</p>

○相川委員	<p>済みません、私も具体的なことを言わしてください。施策の大綱はこれでいいんですけども、中学校のことなんです、今平均的に広島県の平均よりも体力的に身体能力も学力もちょっと劣ってるというのが事実でございます。ですから、それがいいかどうかわかりませんが、中学校に給食がないんですね。給食があると体力があれば学力もついてくるんじゃないかなというような気がいたします。具体的なことで基本目標とか施策の大綱というんですけど、内容がそういうふうなものにできればやってほしいし、それから学校長が3年ぐらいでかわる。これから一生懸命やろうとしてる中で学校長がかわると少しトーンが落ちるんじゃないかなというような感じを受けますので。ちょっと具体的なことで申しわけございませんが。</p>
○井上会長	<p>いろいろご意見、お気持ちはわかりますけども、基本構想ですから、こういう記述する内容として、ちょっとさっきの給食を。</p>
○相川委員	<p>いえ、意見ですから。</p>
○井上会長	<p>では、そういうご意見ということで扱わせていただきたいと。 それでは、この子どもの教育問題のことは終わりにしまして、前回からの宿題というか懸案事項がありますが、それを審議しますね。 最初に整理いたしました基本課題、伊藤委員がおっしゃっていてね、基本課題の中で、何ページだったかな、基本課題で10ページ、「まちづくりの基本的課題」、その総まとめですね。これを2項目立てまして、1つが「人口減少時代の中、拠点性と求心力を備えたまちづくり」と、これに対して伊藤委員の方からご意見がありましてね。最初の「人口減少時代の中」というよりも、「都市間競争の時代に」と、こう変えた方がいいのではないかというご意見なんですね。これについて、これは非常に大切な点ですので、皆さん方のご意見をお聞きしたいと。 欠席されている眞田委員は、変えることに、伊藤委員の案に賛成ですというご意見でした。伊藤委員、もう一度その理由を説明してください。</p>
○伊藤委員	<p>伊藤です。10ページの文章をよく読んだら、「都市間競争の時代」がキーワードというか、基本的課題になってくると思います。それと、人口減少時代というのは日本全体ということで、広島も岡山も倉敷もどこもこうなってくるということです。それから、この基礎調査報告書の73ページで見ますと、5年間では人口が2,000人減ります。それから、5年間では6,000人減るように推計結果が出てるんですが、そのとおりは絶対ならないと思います。福山は人口がそんなに減らないと思います。これは全国の平均値で多分推計されてるんだと思うんですが、福山は拠点性もありますし、産業構造からいってもこんなに減らないと思うんです。だから、人口減少時代というのは、確かに30年後、50年後は非常に大きいインパクトがあるけど、今計画をつくるこの10年ではそんなに人口減少を恐れることはない。むしろいろんなライバルの都市が拠点性とか、いろいろ求めてこういう審議会をつくったり計画を練って、いかにまちづくりをしていくかというようなことをいろんなところでやってると思うので、福山もこのような第4次総合計画をつくったりしていけば、人口はそんなに減らない。むしろライバルの都市に打ち勝っていく方がこの総合計画のもとにしていきたいと、こういうことで「都市間競争の時代」の方がいいん</p>

	<p>じゃないかなと思います。 以上です。</p>
○井上会長	<p>はい、どうも。さあ、皆さんいかがでしょうか。この総合計画の期間が10年ですね。10年先を目標にしていると。その間に人口は事務局の推計では若干減るんですな。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>そうです。</p>
○井上会長	<p>そんなには減らない、若干減りますね。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>10年では若干。微減です。</p>
○井上会長	<p>よその都市ほどは減らないね、うちの人口は。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>他市と比べて、他市よりは穏やかな減少になっていくと思います。</p>
○井上会長	<p>はい、いかがでしょうか。その理由を示していただきまして。</p>
○安川委員	<p>よろしいですか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○安川委員	<p>あまり大した意見じゃないんですが、ただスローガンとして「人口減少時代の中」とここで言うということは、やはり人口をふやすということじゃないかもしれないけど、やりようによってはやはりこの都市を特別な特性のある、そして結構たくさん人が集まってくる、ひょっとしたらふえるかもしれないような都市にしたいというような思いを込めるとすれば、このスローガンはちょっと変えた方がいいかなという。「人口減少時代の中」という言い方を表側に出さなくてもいいのかなという気はいたしますが。「都市間競争」でいいかどうか、ちょっと近づいているんですが、もうちょっと違う言葉、ポジティブな言い方の方がいいかなというふうに思うんですが。というぐらいです。</p>
○井上会長	<p>ほかにいかがですか。はい、どうぞ。</p>
○岡野委員	<p>岡野ですが、私も今、言われたとおりなんです。「人口減少時代の中」とか「都市間競争」とかですね、どこの都市と競争しようとしているのかよくわかりませんが、人口的に見れば広島、倉敷、岡山ぐらいしか中国地方にはないので、そういう基本構想はどうだろうかという気がします。あくまでも人が住んで幸せになればいいわけなんで、人がふえれば確かにサービスのもとになる要因はふえてくるというのはあるわけですけども、住居の自由とかは当然認められておりますし、我々の年代と比べれば住みたいところに住もうという、そういう数もふえてきておるんで、あくまでも福山市が住んでよかったと、住みたいという町をつくるための構</p>

○井上会長	<p>想ということを考えると、この修飾語はどうかなあというふうに私も思います。「都市間競争」は、ちょっとこれはあまりにもあくせく過ぎて、どこと張り合うのかなど。これに勝ってしまうと他の地域が寂れてくることになるので、これはどうかなという気がします。</p> <p>そうすると、分解すると2つあるわけですね。このまくら言葉というか、「人口減少時代の中」という、それがよくないという意見がね、それを「都市間競争」に変えるかどうかという、2つ、議論の提案の中ね。人口減少時代も。</p>
○山口委員	<p>そうなんですよ、これもどこかに比較しとるわけですよ。競争ですよ。今1人当たり借金何ぼあるとか、あれも競争ですよ。それは競争です。</p>
○井上会長	<p>まず、そしたら「人口減少時代の中」という、こういうのはこれは適切ではないという意見に賛成の人、意見を言ってくれますか。採決までとらんところと思うけど。これは好ましくないをつけるにしてもね。じゃ、ましいという意見は。</p>
○門田委員	<p>いや、僕は好ましくない。</p>
○井上会長	<p>これは取った方がいいと。残しといた方がいいという積極的な、そういうふう賛成される委員さんはいらっしゃるかな。</p>
○藤本委員	<p>ちょっとよろしいですか。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ。</p>
○藤本委員	<p>ここはまちづくりの基本的な課題の中身なので、競争とか人口減少が福山市の課題となれば、福山市の人口減少でもいいですけど、先ほどありましたように人口減少が必ずしも今福山市にとって本当に課題かといえ、そうではないと思うんですね。ここはちょっとそれにはそぐわないのかなというような気がいたします。</p> <p>ただ、都市間競争ということになると、それも課題というのはちょっとどうかなと思うので、ちょっと先の頭を変えた方がいいのと、何に変えた方がいいか。本当に今の課題は何なのかと。</p>
○井上会長	<p>はい、どうぞ、門田委員。</p>
○門田委員	<p>門田でございますが、都市間競争、この辺に来ると岡山、倉敷というところへ目標を持っていくわけですが、または尾道を目標にして、それぞれの自治体がそのようなことを訴えてるわけですね。そうすると、どこかをつぶさないけんということになるわけで、あまり構想とすれば、そういう表現の仕方は隣をつぶすべきじゃないかというような、極端に言えば倉敷も福山もいいじゃないかと。福山市がふえればいいじゃないかというような、都市間の悪い競争というイメージを福山市に対しては持ってもらいたくないと、こう思うんですよ。</p> <p>以上です。</p>

○伊藤委員	伊藤です。
○井上会長	はい。
○伊藤委員	<p>別に近隣の都市をつぶすとかいうことではなしに、各都市が切磋琢磨してすばらしいまちづくりをするために都市間競争をしましょうと、こういうことの意味を言ってるわけで、競争すれば勝つところと負けるところが確かに出てくるんですが、やはりそこで知恵を絞ってすばらしい住んでよかったという町にしたいと、こういうことで一般論として都市間競争ということを行ったわけで、この10ページの中をずっと読むと、やっぱりキーワードは都市間競争かなあと感じております。ただ、先ほど言われたように、ほかにまくら言葉というか、いい知恵がもっとあるかもわかりませんから、きょう結論を出してもいいし、次にこの10ページをよく読む、あるいはその前のページを読んだりして、新しい別のまくら言葉というか、あれをつけてもいいかなと思いますが。どこかつぶすということでは決してありませんから、ちょっと誤解のないようにお願いします。</p> <p>以上です。</p>
○井上会長	<p>これ、基本的課題が2つ併記されてますわね。片一方の方はそういうまくらなしですね。ですから、最初の方もまくらなしでもいいんじゃないかと思うんだけど。下は「健康で生き生きと安心して暮らせるまちづくり」が1つ、「拠点性と求心力を備えたまちづくり」。</p>
○安川委員	よろしいですか。
○井上会長	はい、どうぞ。
○安川委員	<p>ここの10ページのところの説明文のところ、例えば下から5行目のところあたり、中四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力を備えた都市機能の充実、都市のアイデンティティーの確立というようなことが書かれておりますが、そういうようなところを一言でうまく言えるというような形で言いますと、例えば個性あふれた都市とか、何というんですかね、このあたりのところを売りにするというのはいかがかというふうに思うんですが。というぐらゐの意見です。</p>
○井上会長	<p>そしたら、この項をきょうは結論を出さないと。それで、きょうは皆さんの意見をまとめますと、「人口減少時代の中」と書くのはよくないんじゃないかというのが大勢だと思いますので、ではどう変えようかというのはちょっとまたもう一回考えてもらいましょうかね。何か別のいいのがあるとか。1つは「都市間競争」とか、もとのあれですがね。ほかにもう少しいいのがないのか。それをきょうはもうペンディングにしていいたいですかね。もう一回考えてもらいましょうよ。とりあえず「人口減少時代の中」というのは、私も個人的には「拠点性と求心力を備えたまちづくり」というのは、これは10年前の総合計画でもそうあるべきなので、人口減少に関係なくこうあるべきであって、減少であろうがどうであろうが関係ないことだと思いますがね。私もこれはなかってもええなという気がするんです。本文では書いていいよ。こういうことがここには求められることがあるかもしれない。</p>

	<p>きょうのところは、そういうことでよろしいか。では、このまくらとか頭の言葉は変える方向で検討していこうと。そのいい案を皆さん考えてくださいと。これはだめですというだけではちょっと答申がね。こういう案の方がいいんじゃないですかというふうに答申しないとね。必ずしも1つにまとめなくてもいいかもしれない。こういう意見がこのぐらい、都市間競争がいいという人がこのぐらいということでも構いませんしね。</p> <p>では、あと30分ぐらい、今まで出ていた意見でまだ何かありましたね、もう1つありましたね。ローカルとグローバルの、安川委員の方から表現のところを、これは3ページですか。</p>
○安川委員	はい、よろしいですか。
○井上会長	はい。
○安川委員	<p>グローバルと言うだけでは、やはりこれも何年か前の考え方だと思います。やっぱりローカルなところに足場を据えてグローバルに発信するという、こういう観点、とりわけその都市間競争も含めてですが、今後の都市のあり方としては重要だろうというふうに思いますので。それで、最近グローバルという造語がされています。それが通りにくいなら、やっぱりローカルなここに、この福山に足場を据えてグローバルなもの、産業構造なり人づくりなりをすると、こういうような考え方がいいかなというふうに思いますので。</p>
○井上会長	<p>そうですね。私個人的には安川委員のお考えに賛同するところがたくさんある。グローバル、かつボーダレスな社会に向かっているというけども、ボーダレスと同時にボーダモアも進行してるんじゃないかという気もする。ここも福山市と尾道市、こんなグローバルと同じように考えたらあかんけれども、何というか背中合わせとかね、お互い全然協調しないとかね、そういう印象を受けてますし、背中合わせで180度反対に向いて、これではどうなるのかな、そういうことですね。</p> <p>それで、グローバルになればなるほど、ローカルな個性がないと尊敬されないものね。グローバルになればなるほどローカルな風土を生かした何かとかいうのを主張していかないとという気が私もするんですね。その辺を総合計画に何か。</p>
○安川委員	<p>そうですね。よろしいですか。私は全く賛成で、ローカルな個性というのをやはり今回はきちんと打ち出した方がいいというふうに思うんです。福山はどういう個性を持って、どういう個性がある都市にするかということ、それを、それがグローバルなところ、うまくつながっていくという、このところがちょっとうまくいくといいなというふうに思います。以上です。</p>
○井上会長	皆さん方のご意見はどうですか。そういうことをベースに個々の表現をどこかでどういうふうに盛り込むかというのを、その次、もしそういうことで皆さん方に。
○岡野委員	よろしいですか。

○井上会長	はい、どうぞ。
○岡野委員	今の3ページのところで、下から5行目のところがありますね。社会経済の動向を踏まえた施策の推進というのがあるけど、このあたりに今安川委員が言われる部分の具体的なものにつながるような表現をする可能性はあるなと思うんです。ただ、この結語が「産業競争力を高めていく」になっておるんで、非常に狭い範囲のことがうたってある。
○安川委員	そうですね。
○岡野委員	ここの表現を言われてるような趣旨に変えたらできるのではないかな。
○井上会長	もうちょっと上のところに文化のことが書いてありますね。「文化の異なる…国際感覚を身につけた人材の育成」、この辺に関係してきませんか。国際感覚を身につけた人材というのは、単に英語がしゃべれるということではないと思いますね。しゃべる内容で日本の文化のことを外国に紹介できる、そういうローカルな地域の文化的特質、あるいは経済でもその土地の特色ある産業というかな。ローカルという言葉は、私は個人的には国際感覚を身につけた人材育成にはローカルの理解、その土地の文化の研究とか、いろいろそういうことも含むので、それを福山の子どもに教育していくとかね、そういうことも含むんですが、それがローカルという言葉がいろいろ出てないからわからないということですかね。この辺ちょっと整理してもらいまして、また今度先に進めたいと。そこのところをむしろこう変えようということを、あれですが。 それじゃほかの件で、もう20分ほど、ほかのところでご意見を。全然違うところで。
○常盤委員	全く観点の違うところでお願いしてよろしいでしょうか。
○井上会長	はい、常盤委員ですね。
○常盤委員	はい、常盤でございます。素案の8ページに「社会・経済特性」というところで、小学区に1公民館が設備されているという、これは本当に我々にとってはありがたいことなんですけれども、肝心の中央公民館の舞台が緞帳が上がらない、おりない、一切動かない。それから、明かりは入れっ放し。それで、舞台を使う私たちにとりましても本当に困ってるんです。それでもなお抽せんでないと使えない。それぐらい使いたい人が多いんです。この間も民生委員さんたちがそこで会合をされたときに、配られたものが読めない。明かりをつけてくださいと言ったら、これ以上明るくなりませんと言われて、こんなところでしてるんですかと言われて。 それから、神辺の方が福山に合併して喜んでたら、中央の公民館がこんな舞台なのかというふうにすごく言われたんで、私に言わないで市に言ってくださいと言ったんですけれども、これは文化連盟からもしっかりお願いして、早急に修理してほしいということなので、ちょっと出す場所を随分考えていたんですが、場所がないので、私の立場上、ごめんなさい、言わせていただきました。よろしく願います。
○井上会長	はい。ほかに。

○永久委員	済みません、1ついいですか。
○井上会長	はい。
○永久委員	<p>永久です。4ページのところに「少子高齢化の進行と人口減少社会」ということで、真ん中あたりに「少子化問題や子育て支援対策として、子どもを産み、育てやすい環境づくりを行うとともに」というふうにあるんですけども、市民の日常生活の不安というのは、社会保障のこと、雇用のこと、それから収入のことだというのが80%近くの者が感じているというふうな資料をどこかでこの前あったか聞いたと思うんですけども、子どもを産み、育てやすい環境づくりということになりますと、雇用の問題とか年金とか健康保険であるとか処遇とかいうのが非常に大きな要素を、母親にとっても占めてると思うんですけども、そういった面の充実をするということになりますと、やはり雇用形態が多様化する社会のところには、若者の就職支援というのと、団塊世代の定年後の就職支援ということを書いてあるんですけども、女性たち、母親たちがまた子どもを産んだら、出産したらほぼ60%は仕事をやめるというふうなことを聞いたこともあります。働き続けるとか、それから再就職をするとか、そういったことの雇用の応援をするというか支援をするというか、そういう面の記述というか、そういう面を取り上げるということも必要じゃないかと思うんですけども。</p>
○安川委員	よろしいですか。
○井上会長	はい。
○安川委員	<p>私も賛成です。そういう意味では、若年層と定年退職と書いてありますが、若者を初め女性や、それから高齢者の仕事のしやすい、暮らしやすいというようなところに、この雇用形態のところで直した方がいいかなと思います。みんなが働いて楽しく暮らせる社会というのがいいかなという感じなんです。</p>
○井上会長	<p>皆さん、これはよろしいですね。今、永久委員の6番の雇用形態多様化の中で、フリーターやニートや、それから退職後のそれと併記して、どういう表現になるかわかりませんが、子育て後の母親の再就職支援というかな。</p>
○永久委員	<p>働き続けるための政策というか施策も必要だし、また子育てのために退職するとかいう選択をした場合も、やはり再就職できるような体制というか、そういうのをやっぱりつくっていく、そういうのを支援していくという姿勢というのが必要なんじゃないかと思うんですが。</p>
○井上会長	<p>そういうふうにこれは提言すると。若者就職支援と退職後の就職支援に併記して、そういう人の支援やね、ここに入れといてほしいと。</p>
○永久委員	はい。

○井上会長	<p>ほかの委員の皆さん、よろしいですか。入るかどうかわからんけど、審議会としてはそういう提案をしていくと。</p> <p>それでは、ほかに。まだ 20 分ほどありますので、ごさいませんか。どうぞ。</p>
○藤井副会長	<p>私は進行の補佐なんであまり言えないんですけど、14 ページのところの一番下の行ですね。最近よく見る言葉、文章なんですけれど、「市民と行政が対等な立場で協力し合い」という、この言葉は最近協働のまちづくりの中で出てきた言葉なんです、あえて対等という言葉が入っているんです。今までは対等でない協力関係であったということ認めてるのかどうかわからないんですけど、じゃ対等な立場というのはどういうことをもって対等な立場というのかということ、少し意味づけとか説明をしておかないと、どうなったら行政と市民が本当に対等なのかということ、私だけかもわかりませんが、非常に気になるんですね。</p> <p>今までは対等でない協力の仕方、ちょっと皮肉な言い方ですけど、最近こういう文章、言葉が多く見られるので、対等とはどういうことをもって対等な協力関係なのかということ、少し多分この計画全体の中の大きなテーマだろうというふうに思うんですね。これからのまちづくりを市民と行政が対等な形でまちづくりをやっていくんだと。この計画もそういう形で推進するんだということ言われてると思うんです。そここのところをちょっと説明できるように、これは次回の課題でもいいですけど。それが多分次の、次回審議する 15 ページからの基本方針にもかかわってくるんじゃないか、そんな気がしておりますので、ちょっとあらかじめお願いしておきます。</p>
○井上会長	<p>一応事務局から答えてもらっていいでしょうね。本当にそういうふうに指摘されたら、これはこれからも言葉のほんまの意味で対等な立場ってあり得るのかと思うのだけどね。協力はあつるよ。それぞれの立場の協力はあつると思うけど、それを対等な立場と。よく使つてるね。忙しいですけど、ちょっと事務局も考えてくれますかね。</p>
○岡野委員	<p>要らんこと言うていいですか。岡野ですが、これは歴史がちょっとあるんです。行政サイドから見ればこういう表現を使う時代になったんですね。昭和 22 年に現行の地方自治法が施行されて、国と地方公共団体というふうなものできたんですね。ところが、戦後復興で住民というのはお上に任せばいいという時代がずうっと続いてきたんです。それで、これが行政に対して物を言わなければいけなくなったのが公害問題だったんです。これが昭和 40 年だったんですね。ですから、公害対策基本法ができたのは、住民の行政に対する行動があつたからできたという、そういう歴史があるんです。行政は言うことを聞いてくれるぞと、我々が意見を言えば聞いてくれるぞという、そういうふうな歴史があるんですね。それと、高度成長時代には言い過ぎてきた。税収がたくさんあるからどんどん言えばいいという、そういうふうな歴史が実はあるんです。</p> <p>したがって、行政の中にも、国があつて都道府県があつて市町村があると、都道府県は市町村の上位団体だというふうな誤解があつたんですね。現行もそうですけども、都道府県と市町村は同等の立場ですよという。これは 2000 年の法改正の中で明確になったわけなんです、行政サイドから見れば住民に対しても平等ですよ、対等ですよという、そういうふうな</p>

○藤井副会長	<p>ものをどうしても意識するわけです。</p> <p>確かに、岡野委員は行政にずっとおられたからそうなる。我々民間から見ると、任しておけばいいような形の市民を育ててきたと。だから、そういう市民であってよかったというふうに、そういう意味で、ちょっと今の言い方は変ですけど、そういう市民の方がよかったというふうな歴史の中でそうしてきて、今や住民参加とか市民参加とか言わないと、もう行政が回らなくなってきた時代になって、だからあえて対等な立場でというふうに言わざるを得ないような時期になってきている。だから、今回の長期計画にも公募委員を入れなければいけない。可能な限り住民参加、市民の意見を入れていこうというスタンスになってきてるのだというふうに思っていますので、言葉だけがひとり歩きしたりこういう文言を入れればいいというものじゃない。実際にそれが具体的に対等な立場で協力し合えるような計画づくりをしなきゃいけない。そうしないと責任だけが、我々市民参加でこの審議会で計画を審議したじゃないかと、市民の皆さんも意見をいただきましたよということだけが残ってしまうんです。</p> <p>だから、むしろそういう形でこのところをきちっと整理しておかないと、単なるこの審議会、計画策定委員会が形骸化する可能性がある。心配して言ってるわけで、そうなると言っているわけじゃなくて、心配しているので、本当にこの計画を実際に市民サイド、市民の目から見ていくような、そういう視点でつくり上げていかなければいけないのではないかなという。ですから、そこのところをしっかりと押さえといていただきたいというような話です。済みません。</p>
○山口委員	よろしいですか。
○井上会長	はい。
○山口委員	山口ですけど、20 ページなんですけど、「市民が生涯にわたって心身の健康を増進し、生きがいを持って生活できるよう生涯スポーツ活動の推進を図る」ということは、どういう試案があるのか、ちょっと事務局の方でご説明いただけますか。
○井上会長	どうでしょうか。もう時間がちょっとしかないのです。
○山口委員	次回でもいいです。
○井上会長	次回の方に改めて。この後半部分ですね。もしほかの、きょうの前半部分で意見があればそちらを先にやらせてもらえればいいかなと。どうでしょうか。8時には終わりたいと思います。はい。
○門田委員	今、藤井副会長がおっしゃいました協働のまちづくりを目指すという中で、私もそういうふうに思っております。と申しますのは、絶えず口では市と対等に物を言うんだと言いながらも、ただし予算をもっとつけろと。我々は一生懸命切符を買って、これでよろしいかと伺いを立てて、そして予算をもらうわけですね。予算はつけてくれるだろうというふうな判断で。だけど、絶えず、ただし行政が主導によるわけです。今度の協働のまちづくりにしても行政が主導でスタートしたわけですよ。我々は何も不自

由に思ってなかったんですね。にもかかわらず行政が一生懸命どんどん、どんどんと1人で動いたということで、それをもって、どうもさっき言われました「対等の」という言葉をすぐ使いますけどね。使いますけども、果たしてそれで対等だろうかというのは絶えず疑問を持っています。だから、やっぱりお金を持ってるところが強いわけですからね、それについていかざるを得ない。この計画はアウト、これはアウトということですね。だから無理な計画を立てても1年では執行できません。せめて3年はかかります。予算をもらったらですね。モデル事業をもらったら、3年してやっと完成するというような気がいたします。

例えば、記念誌にいたしましても、これは発送する前にいろんな会を持って、決まったら今度は原稿配分を担当して人を集めてくる。最小限3年かかります。バラ花壇にいたしましても1年ではできません。やっぱり最小限3年要ります。したがって、今のすべての事業は1年30万いただく。そういうことでは実際に事業はできないわけです。ことしは初めてやるんだから、これからいろんなところ、悪いところは直していかないけんという気持ちではございますけども、やはり対等でありながら対等でないのが、藤井副会長がおっしゃいましたそういう疑問を持っていますので。

以上でございます。

○大元委員

大元です。さっき言われた予算があるから対等、予算がないから対等でないという、これははっきりしとるんですが、きょうもちょっと地域の老人会の予算とかで役員で話をして、老人会のコミュニティーといいますか、奉仕活動にも予算がつかないから、もう書類を出さんでいいんだというのを僕は聞いたんですが、全国的に三位一体改革じゃないが、金を使わずに行政と相談しながら対等な話し合いの中でいい福山市をつくっていくという方向づけをやらんと、税金が出るからやろうでなしに、いい見本があったらそれに倣って一緒にいい方向づけでいい福山市をつくっていくと。金を補助金を目当てにしないという時代が来ておるんじゃないかと思えます。

農業の中でも、来年からは自分が考えて、自分がやって、それで生活ができんかったら国が補助金を出してやりましょうと。補助金のできるような方向づけで農業を一生懸命やってみなさいと。これをやりなさいではない、やってみなさいと。で、一緒にやりましょうと、対等な立場で農業技術を教えましょうという時代が来ておるような気がします。雑談のような気がします、対等な立場というのは、もう補助金行政ではないですよということじゃないかと思えます。

以上。

○井上会長

それでは、もう10分ぐらいですから、先に進まず、この前半の部分だけできょうは終わりたいと思えますが、よろしいですかね。

それでは、ちょっと私も全体を整理し切っていないですけども、きょうのところは農地と山林の保全と活用の問題、それから子どもの教育の問題ですね。それから、あと個別に幾つかありましたけども、それから基本的課題の問題は先送り、それから最後の協働に関する対等の立場、そこら辺の考え方というかな、その辺のところ、それからもう決着つけたというか、子育てが終わったお母さんの問題とか、その辺の問題を提言として入れていくということぐらいできょうはまとめたいと思うんですが、ちょっと抜けてるかもしれません。後で整理してまた次回に示させていただきたいと

○事務局(藤井課長)	<p>思います。よろしゅうございますかね。 事務局、ございますか。はい、どうぞ。</p> <p>1つ、きょうは14ページまでということなので、将来都市像についての議論が今の時点でまだできてないんじゃないかと思いますので、そのあたりを。</p>
○井上会長	<p>将来都市像ね。ちょっと5分ぐらいで、あるいは次回になるかもしれないけども、13ページの将来都市像、こういう案ですと。「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ばらのまち福山」と、こういうのをキャッチフレーズ、こういうのを都市像にしたいと。キャッチコピーというんですかね。福山の都市像、都市のイメージって何ですかといたら、こういうまちですよと。この内容が意味するまちに向けていくと。これについてご意見を、意見なければね、この案で結構ですよという答申で。また、最後の方でもう一遍ちゃんと決着つけないかん。とりあえずきょうのところこんなんでどうかなと。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>4案あったうちから、これに事務局としては絞り込んだということです。</p>
○井上会長	<p>4案、どこに書いてあるの。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>失礼します。私どもが当初作成したものについては、案を4つ並べて、このうちどれがいいでしょうねということ。</p>
○井上会長	<p>配付された資料には1案しか書いてない。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>はい、そうです。ですから、先ほど事務局と言いましたけれども、庁内の策定委員会の方でこれに絞り込んだということです。</p>
○井上会長	<p>その4案についてこの審議会で議論してほしいとか、そういう話は出てませんね。私のもらってる資料は1つしか書いてない。案。どうなってる、4つとも書いてありますか。</p>
○丸山委員	<p>2月には4案書いてあります。</p>
○井上会長	<p>そうですか、わかりました。では、この4つのどれがいいかをね。ごめんなさい、失礼しました。</p>
○永久委員	<p>済みません、2月以前の資料に出てるということで、私たちの資料にはないんです。</p>
○井上会長	<p>前回委員会で配付された資料にどうなってますか、確認してください。</p>
○事務局(藤井課長)	<p>恐らくそのパブリックコメントを3月に実施してますが、そのときの資料ではないかと思えます。</p>
○井上会長	<p>だから、素案でないんだね。</p>

○事務局(藤井課長)	はい。
○井上会長	前回配付されたのと別の資料ですね。
○事務局(藤井課長)	ですから、今回はお出しをしております。ですから、お手元にあるものが現時点でのものということです。
○井上会長	前回、公式に配付された、この素案を検討してくださいと配付された資料にどうなってるか、私が取り違いしてるのか。皆さん方、13 ページはどうなってます。13 ページの将来都市像のところね。箱の中ですね。4 つ書いてあるかどうか。
○永久委員	1 案です。
○井上会長	1 つの案だけですね。これが審議会にかかった公式の資料だからね。ですから、これでどうですかという質問ならそれでいいんですけども、4 つの案を比較してどうですかというんだったら、その案の資料を出していただかないかんね。あるいは、それじゃなしに、参考資料として出てるのだったら、それを言ってもらったらそれを出しますが。ほかにも資料が配られてるかどうか。どうします。4 つ皆審議してくださいと。
○事務局(藤井課長)	はい、それでは次回に4案をまたお示しいたします。
○井上会長	うん。それでいいんじゃないかという意見がありましたからね。では、これは次回にさせていただきたいということだね。この前配られた参考資料の中にはないんですか。ほかの資料、この素案以外にたくさん資料を配られましたね。どこかに。
○事務局(藤井課長)	ですから、そっちの方では主に課題が整理されています。お配りしているのが、この案が1つのものです。
○井上会長	委員さんは、ほかの案は全然知らないから、あらかじめ知っておった方がいいかな。
○事務局(藤井課長)	わかりました。委員の推薦のご依頼をさせていただいたときに参考資料として配ったものが、4案になってたということです。
○井上会長	そしたらね、次回の委員会の日程を案内される文書を送られますね。次回の委員会の案内状を出されますね。それに4案をどこかに書いていただければ。
○事務局(藤井課長)	わかりました、次回のご案内のときに。はい、わかりました。そうさせていただきます。
○井上会長	それでは、次回のスケジュールがございますね。

○事務局(藤井課長)

それでは、次回のスケジュールをまた追って調整させていただきます。きょうはどうもありがとうございました。

○井上会長

ちょっと待ってください。次回は8月3日ごろの予定です。あと詳しくまた調整させていただきます。それから、今度は主として15ページ以降、きょう残した課題ということでさせていただきます。どうもありがとうございました。

(了)

■出席者一覧

	所属団体等	名前
委員	福山市連合民生・児童委員協議会 副会長	あいかわ ひろみ 相川 博美
委員	福山市教育委員会 委員長	いとう やすあき 伊藤 泰昭
委員	福山市女性連絡協議会 会長	いのうえ こ 井上 タカ子
会長	福山大学 工学部教授	いのうえ のりゆき 井上 矩之
委員	福山商工会議所 副会頭	うらべ まこと 占部 誠
委員	福山市農業委員会 会長	おおもと いくお 大元 活男
委員	(社) 福山市社会福祉協議会 会長	おかの かつなり 岡野 勝成
委員	福山市PTA連合会 事務局次長	くらた いくこ 蔵田 郁子
委員	福山文化連盟 副会長	ときわ はつえ 常盤 初江
委員	公募委員	ながひさ ひろこ 永久 洋子
副会長	福山平成大学 福祉健康学部教授	ふじい さとる 藤井 悟
委員	連合広島福山地域協議会 事務局長	ふじもと かずし 藤本 和士
委員	広島経済同友会福山支部 副支部長	まつもと しげたろう 松本 茂太郎
委員	(社) 福山市観光協会 副会長	まるやま まりこ 丸山 万里子
委員	公募委員	みかみ きくみ 三上 貴久美
委員	福山市自治会連合会 会長	もんでん つとむ 門田 勤
委員	福山市立女子短期大学 学長	やすかわ えつこ 安川 悦子
委員	(財) 福山市体育協会 常任理事	やまぐち しょうじ 山口 正司

(注) 五十音順